

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2375700826
法人名	医療法人聖会
事業所名	グループホーム若宮
訪問調査日	平成 20 年 3 月 3 日
評価確定日	平成 20 年 5 月 9 日
評価機関名	社会福祉法人愛知県社会福祉協議会 施設福祉部

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月3日

【評価実施概要】

事業所番号	2375700826
法人名	医療法人聖会
事業所名	グループホーム若宮
所在地	愛知県知多郡武豊町若宮134番地 (電話) 0569-74-1888
評価機関名	社会福祉法人愛知県社会福祉協議会
所在地	名古屋市中区丸の内2-4-7
訪問調査日	平成20年3月3日

【情報提供票より】 (平成20年2月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・ <input checked="" type="radio"/> 平成 14 年 11 月 29 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	6人, 非常勤 1人, 常勤換算 3.25人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	1 階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,680 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有 (円) <input checked="" type="radio"/> 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有 (60,000 円) 無	有りの場合償却の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成20年2月15日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	3 名	要介護2	0 名		
要介護3	2 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87,0 歳	最低	71 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人聖会石川病院
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

建物は鉄筋の平屋建てで、駅に近く途中には新四国八十八ヶ所のお寺があり四季の移り変わりが楽しめる自然環境の中、静かな落ち着いたグループホームである。入居者の生活暦や思い、家族の意向を大切に支援をしている。認知症デイサービスを利用している方との関係もよく、クラブ活動行事や体操などを楽しんでいる。また、セラピー犬協会の方がボランティアで定期的に犬を連れて訪問しており、入居者と犬とのふれあいを大切にしている。家族や入居者との関係をより深める関係づくりや地域の方々の協力が得られるよう取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	記録の取り方について、引継ぎが確認しやすい様に改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価、外部評価を職員全員で作成することで意識が変わり、より良いサービスの実践に向けて、職員自ら気付いた点について意見交換を行ったり、体制作りに取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月ごとに行っている。区長、民生委員、入居者の家族等が参加し、運営行事の報告をしている。そこで出された意見や要望を採り入れ、外出の機会を多くしたり等、サービスの向上に取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部3)
	意見箱、苦情窓口を表示したり、家族の訪問時の近況報告の際には、意見や不満を伝えやすい雰囲気づくりを心がけている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、お祭りや盆踊り大会には、入居者と共に参加している。見学者やボランティア(唄・踊り等)などの訪問も積極的に受け入れ、近所の人達との交流を深めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての理念の見直しをしている。	○	地域との関係強化の意義を全職員で話し合い、理念を作り上げることが期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送りなどで共有を図り、理念の実現に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、お祭り、盆踊り大会等入居者と共に参加している。見学者、ボランティアの訪問（犬と入居者とのコミュニケーション、唄、踊り等）の受け入れを積極的に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価と外部評価を職員全員で確認している。個々の入居者に対する対応を全員で話し合う機会をもち、職員自ら気付いた点について、その都度、意見を全員が出しあうようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、区長、民生委員、入居者、家族の代表等の参加により行われている。行事や活動状況などの報告をし、そこでの意見や要望を取り入れ、外出の機会を多くするなどサービスの向上に生かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月、町内会会議に出席し、情報交換を行っている。会議以外にも市町村の窓口によく足を運び、担当者との連絡を密に取り、サービスの向上に努力している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	訪問時には生活の状況を報告している。家庭の事情があり訪問が少ない家族には、電話、通信などにより入居者の状況を報告している。職員の異動についての説明もしている。	○	定期的に入居者個々の生活の様子、健康状態などを含めた、きめ細やかな報告をされることが期待される。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時に、入居者の日常生活の様子を報告する中で、家族が意見や不満を伝えやすいような雰囲気作りを心がけている。苦情窓口をホーム内に掲示するなど運営への反映に取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職を最低限に抑える努力をしているが、異動などある場合、新規職員に対して、現職員も交えコミュニケーションを多くとっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加できるよう配慮している。	○	内部外部問わず研修の年間計画を立て、職員が研修を受けやすい状況を作り、また、全職員が共有できるよう定期的な会議を実施されることが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流をする機会を持ち勉強会、情報の交換をして、サービスの質を向上させていく努力をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用される方が安心、納得したうえで、サービスを利用していただくために、見学やデイサービスなど提案して、徐々に馴染めるようにケアマネージャーを含め、家族と相談しながら工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は人生の先輩として、生活の知恵や技を教えてもらったりしている。本人の思いや不安を知ること努め、共に支えあう関係作りをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望を入居者の言葉や日々の行動や表情からくみ取り、家族や関係者からの情報を得るようにして、本人の視点に立って話し合い取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の関わりの中で行動や表情から得た要望、生活の記録、アセスメントを基に家族の意見を交え、必要に応じて関係者間で話し合っ て介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヶ月毎に、家族や医療関係者職員と相談しながら見直しをしている。変化のない場合でも、入居者や家族の状況を確認しながら職員間で話し合い、現状に即した計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	認知症のデイサービスを実施している。入居者や家族の状況に応じて通院送迎など実施し、個々の入居者の要望に応える努力をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診先は家族の意向を大切にし、同法人の医療機関との連携を図り、適切な医療を受けられるように支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	同法人の病院の終末期の方針を基に支援しており、職員間で共有されている。入居者の容態に対して常に病院側と話し合い家族の希望を取り入れながら、その情報は全職員が確認している。	○	重度化や終末期の支援について、事業所としての方針を定めることが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の誇りやプライバシー、言葉がけ等の対応に配慮している。記録などの個人情報は事務所の目立たない場所に保管され、気配りがされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の日課はあるが、一人ひとりの体調や意向を大切にし、その日、その時の本人の気持ちに寄り添った支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 を	食事の準備、味付け、後片付けは入居者の能力に応じて一緒に行っている。食事は職員も同じテーブルで一緒にしており、入居者との対話を大切にしながら支援をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望に応じており、毎日の入浴も可能である。体調等の状況や入浴を嫌がる入居者には言葉かけや対応の工夫により個々に合わせた支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の好きな事に合わせて、家事、観葉植物の世話をしたり、楽しみのぬり絵、唄、踊りなど、生活に張り合いが持てるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くのお寺への散歩や買物に同行し、支援をしている。毎日の散歩が安全に参加できるよう事前にコースを確認し、全員が出かけられるよう計画を立てている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	危険回避のため施錠をすることについて家族には理解されている。職員の意識としては入居者の気持ちにそった支援を念頭においている。入居者が一人で外に出かけた時はそっと見守り、二人体制で対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災の備品の準備がされ、定期的に防災訓練を行っている。運営推進会議の中で話し合い、地域に協力を呼びかけ、ホームを地域の避難場所としての働きかけをしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人の栄養士の指導によって栄養のバランスは確保できている。水分、食事量は記録されており個々に合わせた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	暖かい日差しも入る間取りの中で、自由に過ごせる居場所が確保されている。気になる臭いもなく季節の花、雛人形、小物入れなどを飾り季節感を取り入れている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具等を持ち込みながら居心地よく過ごせるよう配慮されている。家族の訪問時はプライベートの時間として楽しめる空間でもある。		

※  は、重点項目。